

令和 3 年 8 月 21 日現在

機関番号：34405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00197

研究課題名(和文)江戸時代の土佐派の基礎的研究—作画領域の確立と画風の継承から見た土佐派の活動—

研究課題名(英文) Basic research of the Tosa school in the Edo period-Activities of the Tosa school from the perspective of establishing the drawing area and inheriting the style of painting-

研究代表者

河田 昌之 (Kawada, Masayuki)

大阪芸術大学・芸術学部・教授

研究者番号：20712061

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、土佐派と土佐派から分派した住吉派の如慶、具慶の物語絵、人物画などの作品とその下絵を対象に、継続して行なってきた研究蓄積や先行研究を参考にしながら、土佐派の作品制作の実態を把握することを通して、やまと絵の継承・創造を担った土佐派の性格、体制などを解明する視点を確立することを目的とした。新型コロナウイルス感染予防のなかにあり、可能な範囲で国内国外の資料調査によるデータ蓄積と作品研究に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

やまと絵の流派の土佐派に関する研究は、室町時代の光信が早くに研究され、江戸初期の光吉、前期の光則、光起、住吉如慶、具慶に研究が広がった。しかし土佐派の大半がまだ研究の対象になっておらず、やまと絵の伝統的な流派であるにもかかわらず全体像が把握できていない。土佐派の活動の全体的な把握のために、研究実績と先行研究を踏まえ、江戸時代の土佐派作品の調査に努めたことで、成果の一端を展覧会や論文等で公開できた。調査が十分に行えず土佐派の活動の解明の視点確立という目的達成には至っていないが、土佐派に対する全体的な理解を促すことと研究の基盤作りができ、学術的、社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study examined the activities and significance of the Tosa school in the early modern period, based on the accumulation and research of basic data that elucidates the character and system of the Tosa school that was responsible for the inheritance and creation of Yamato-e. The method is to investigate the works held in Japan and overseas, targeting the production of Tosa school works from the early to late Edo period. We tried to understand the actual situation of the activities by comparing with the data of works drawn by Tosa school and Sumiyoshi school painters Sumiyoshi Jokei and Gukei, which were accumulated in the previous surveys.

研究分野：美術史

キーワード：土佐派、住吉派、板谷派 やまと絵 桃語絵、社寺縁起絵 模写、粉本 絵所預り、御用絵師

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中世末 近世の絵画史における二大潮流は土佐派と狩野派である。組織や漢画様式を伝承する狩野派の盤石さに比べると、二大流派の一翼を担う重要な画派であるにも関わらず、土佐派の印象は薄いと云わざるを得ない。

2. 研究の目的

江戸時代のやまと絵研究の状況から、伝統的なやまと絵画派の代表である土佐派の動向をあらためて捉えなおし、土佐派の絵画制作の本質解明のための基礎的な研究を目的とする。

3. 研究の方法

研究方法は 1 資料調査と分類及び整理、 2 資料研究の 2 項目を立てた。

1 資料調査

作品の調査 作品の情報収集 資料整理と分類並びにリスト作成の 3 点からなる。

2 資料研究

収取した資料の報告 土佐派の画人の系図の検討 土佐派と住吉派の作画と交流の比較の 3 点からなる。

4. 研究成果

1 作品調査とその成果

海外作品の調査はアメリカの美術館等に集中した。ニューヨーク公立図書館スパンサーコレクションの伝土佐光信筆「源氏物語」「賢木巻」と「柏木巻」冊子の表紙絵は、光則になることが調査を介して判明し論考にまとめた(3*)。

国内の所蔵機関で重要な調査は、寛永度及び安政度の内裏造営に関わる京都御所の襖絵である(4*)。本課題の調査は現存する土佐派、住吉派の作品の状態や所蔵先について、情報共有の機会となり、土佐派の総体的な把握と研究の基礎を形成するものとなった。

2 資料研究とその成果

(a) 「源氏絵研究」に関して

土佐光則の描く小画面源氏絵について、シンポジウムで発表(2*)し、発表の一部を図書(1*)に掲載した。

(b) 絵師に関して

土佐光起の作品研究は、分担者の知念理が行ない光起の作品分類を進展させた(5*)。

(c) 展覧会に関して

特別展「土佐派と住吉派 やまと絵の荘重と軽妙」(和泉久保惣記念美術館 2018年10月13日~12月2日)

室町時代の土佐光信から江戸前期までの土佐派作品を陳列し、土佐派の動向を紹介した(6*)。

(d) 絵師と作品に関して

特別展「土佐派と住吉派 やまと絵の荘重と軽妙」で出陳された伝住吉如慶筆「書写山縁起絵巻」(円教寺)の錯簡について修正案を示した(7*)。

(e) 土佐派の画人の系図の検討

江戸時代末の「倭錦」(本朝画事)について現存する3点の「倭錦」(本朝画事)(東北大学図書館、国会図書館、九州大学図書館)を調査し、得られた結果を絵所預りに復歸した光起から再び続いたこの職を守る流派の性格と関連づけた(8*)。

(f) 土佐派と住吉派の作画と交流

光起の人脈的な広がりについて、土佐光起筆「源氏物語図扇面 帚木」(個人蔵)を取り挙げ、この作品の詞書伝承者である一条兼輝と光起の関わりを述べ、人的交流について考察した(9*)。

3 今後の展望

調査を行なった京都御所内の殿舎の障壁画制作は、江戸後期の土佐派を大きく変化する出来事であったが、その時期のやまと絵のあり方を考えることが今後の課題の一つである。今後は寛政度と安政度の内裏造営の間の作風の推移に見るやまと絵の伝統のあり方などについても考察を進めていきたい。

4 主要図書、発表、論文

[図書]

1* 河田昌之『近世土佐派源氏物語絵』(和泉市久保惣記念美術館 2020年3月)

[学会等発表]

2* シンポジウム発表：河田昌之「土佐光則の小形源氏絵へのアプローチ(“An Approach to the Small-Scale *Genji* Pictures of Tosa Mitsunori”)」於：コロンビア大学
2018年4月13日

[論文]

3* 河田昌之「スポンサー・コレクション源氏物語「賢木」巻、「柏木」巻冊子(ニューヨーク公立図書館蔵)の絵師と詞書筆者について」(特別展『土佐光吉 戦国の世を生きたやまと絵師』図録 堺市博物館 2018年)

4* 松尾芳樹「寛永度造営における清涼殿の障壁画について」(『土佐派絵画資料目録』三
1992年)

5* 知念理「土佐光起落款・印章 増訂補遺」(大阪市立美術館紀要第18号 2018年)

6* 河田昌之「土佐派系図のなかの光吉、光則、光起、如慶、具慶」(特別展「土佐派と住吉派 やまと絵の荘重と軽妙」)図録 和泉久保惣記念美術館 2018年)

7* 河田昌之「伝住吉如慶筆「書写山縁起絵巻」(円教寺蔵)の錯簡修正」(和泉市久保惣記念美術館紀要 21 2019年)

8* 河田昌之「土佐派の流れと光起」(特別陳列「土佐光起生誕400年 近世やまと絵の開花 和のエレガンス」)図録 2017年)

9* 知念理「土佐光起「源氏物語扇面」について」(特別展「土佐派と住吉派 やまと絵の荘重と軽妙」)図録 和泉久保惣記念美術館 2018年)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 知念 理	4. 巻 20号
2. 論文標題 研究資料 近世やまと絵作品における公家らによる詞書等の資料的検討 (2) 土佐光起筆「三夕図」 (個人蔵) 土佐光成筆「新六哥仙画帖」(和泉市久保惣記念美術館蔵)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪市立美術館紀要	6. 最初と最後の頁 53-63p
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河田昌之	4. 巻 1冊
2. 論文標題 スペンサー・コレクション源氏物語「賢木」巻、「柏木」巻冊子(ニューヨーク公立図書館蔵)について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 堺市博物館 特別展「土佐光吉」図録	6. 最初と最後の頁 76-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河田昌之	4. 巻 1冊
2. 論文標題 土佐派系譜のなかの光吉、光則、光起、如慶、具慶	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和泉市久保惣記念美術館 特別展「土佐派と住吉派」	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河田昌之	4. 巻 21号
2. 論文標題 「書写山縁起絵巻」(円教寺蔵)の錯簡修正	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和泉市久保惣記念美術館 紀要	6. 最初と最後の頁 32-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 知念理	4. 巻 190号
2. 論文標題 大宮神社（山鹿市）の土佐光起筆「三十六歌仙図扁額」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 美をつくし（大阪市立美術館だより）	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 知念理	4. 巻 1冊
2. 論文標題 土佐光起「源氏物語扇面」について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特別展「土佐派と住吉派ーやまと絵の荘重と軽妙ー」図録（和泉市久保惣記念美術館）	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 知念理	4. 巻 19号
2. 論文標題 研究資料 近世やまと絵作品における公家らによる詞書等の資料的検討（1）土佐光起筆「大寺縁起」（開口神社蔵）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪市立美術館紀要	6. 最初と最後の頁 38-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 河田昌之
2. 発表標題 "An Approach to the Small-Scale Genji Pictures of Tosa Mitsunori"（「土佐光則の小形源氏絵へのアプローチ」）
3. 学会等名 Columbia University Symposium: "Illuminating The Tale of Genji: New Art Historical Perspectives"（「源氏絵：新しい美術史的展望」）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 河田昌之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 和泉市久保惣記念美術館	5. 総ページ数 295ページ
3. 書名 『土佐派源氏絵研究』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	知念 理 (Chinen Osamu) (80726969)	公益財団法人大阪市博物館協会(大阪文化財研究所、大阪歴史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術・大阪市立美術館・主任学芸員 (84413)	
研究分担者	松尾 芳樹 (Mastuo Yoshiki) (80728105)	京都市立芸術大学・その他部局等・学芸員 (24301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------